

## 【第1回レジュメのサンプル】

タイトル

発表の日付  
学籍番号 氏名

### 発表のねらい

この記事を選んだ理由、必要な予備知識の説明など、記事の要約に入る前のイントロダクションとして必要なことがらを説明する。

### 記事のデータ

新聞名・日付・朝夕刊別・面数・見出し・(執筆者)

### 内容の要約

箇条書きで簡潔に。

### 感想

感想だけでなく、疑問に思ったこと、分からなかったことなど。  
記事の中で、今後掘り下げて調査したいテーマも考えてくる。

# 日中国交正常化 30 周年を迎えて

2002/09/30

文化環境学科 藤永 壯

## 発表のねらい

今年の 9 月 29 日は日中国交正常化 30 周年。1972 年に当時の田中角栄首相が国交のなかった中国を訪問し、9 月 29 日に共同宣言に日中両国代表が署名して国交が正常化した。30 周年の節目に、国交正常化交渉のときのエピソードと今後の日中関係の課題を考える。

## 記事のデータ

①朝日新聞 9 月 29 日朝刊 7 面

「風 上海から／『天皇陛下によろしく』（編集委員・加藤千洋）

②朝日新聞 9 月 29 日朝刊 3 面

「日中国交正常化 30 周年を迎えて／日本の実情探る中国」（中国総局長・五十川倫義）

## 内容の要約

①について

- ・日中交渉は諸懸案を 5 日間の協議で一気に解決し、国交回復を果たした短期決戦
- ・歓迎宴会での田中首相の発言で歴史認識の協議が難航  
→異例の車中会談：大平外相が中国の姫鵬飛外相を説得→中国側の信頼
- ・いくつもの山を越え、交渉は成り、29 日午前に共同宣言署名
- ・上海での宴会の前に田中首相は日本の新聞を読みふける  
→世論を気にする日本の首相の姿に中国側官僚は驚く
- ・上海空港で周恩来首相が田中首相に「天皇陛下にどうぞよろしくお伝え下さい」と伝言最後の最後に驚かされる場面。田中首相は返す言葉が出てこず、感激の面持ち

②について

- ・「日本人とは何だろう」「日本とどうつき合うべきか」——中国人の多くが答えを探している
- ・祝賀行事オペラ「蝶々夫人」北京公演の指揮者・小澤征爾さんについて、インターネットで論争  
ウィーン・フィル新年コンサートの前に「日本人に指揮させるな」の声が載るが、反論が多かった。  
日本ポップスのサイトでも、歴史問題を理由にした日本批判に対して、批判の声  
→実際に見聞きした日本を、学校や家庭で教わった過去とすりあわせる＝頭と気持ちを整理
- ・中国当局も答えを探す→江沢民国家主席の記念演説（22 日）  
過去を忘れはしないが、それだけでは時代に合わない、その後の歩みを評価して日本を

とらえ直したと評価

- ・中国側は、日本も自分たちをきちんと見てほしいという思い  
中国は脅威ではない、中国人は犯罪者ばかりではない

## 感想

歴史認識の問題が、日中国交正常当時も今日も、中国側で敏感に反応する問題であることを改めて認識した。しかし中国側の日本イメージは、次第に変わりつつあるようにも感じる。

日中双方とも、意外にお互いを知らないことが多いのではないだろうか。

今後はどうして 1972 年まで、日中が国交を正常化することができなかったのか、調べてみたい。

## 【第2回報告レジュメのサンプル】

タイトル

発表の日付  
学籍番号 氏名

### はじめに

1 回目の報告で分かったこと、疑問に思ったこと、感想などを改めて簡単に述べる。そのうえで、2 回目の発表では、何をどこまで明らかにしようとするのか、ねらいを説明する。

### 参考文献・ホームページ

書籍や論文の場合には、著者・書名（論文名）・出版社（論文の場合は掲載雑誌）・発行年（論文の場合は号数）を記入。新聞の場合は1回目と同様。ホームページの場合は URL アドレスを書く。

### 内容の要約

小テーマごとに、3～4 章程度に分けて論点をまとめる。箇条書きで簡潔に。

### おわりに

全体的内容をまとめたうえで、感想、疑問点、今後の課題などを述べる。

※参考資料などがあれば配布してもよい。

# 日中国交正常化への道のり

2002/11/11

文化環境学科 藤永 壯

## はじめに

1 回目の発表では、日中国交正常化 30 周年にあわせて、交渉のときのエピソードを紹介し、今後の日中関係の課題について考えた。今回はどうして 1972 年まで、日中が国交を正常化することができなかったのか、日中国交正常化に至る歴史的な経緯について調べた。

## 参考文献

小島晋治・丸山松幸『中国近現代史』岩波新書、1986 年

### 1. 日本の敗戦と中国革命

- ・ 1945 年に日本は敗戦→中国は戦勝国に
- ・ しかし翌 46 年から国民党と共産党の間に内戦が再開
- ・ 49 年 10 月 1 日に内戦に勝利した共産党が、中華人民共和国の建国を宣言。国民党は台湾に逃亡

### 2. 日本側の事情

- ・ 日本は戦後、アメリカの占領を受ける
- ・ サンフランシスコ講和条約締結と同時に日米安保条約締結（1951.9.8）→日本は独立回復とともにアメリカの同盟国となる
- ・ 講和条約発効日（1952.5.28）に台湾と日華平和条約調印＝台湾を正式な政府と認め、中国と対立

### 3. 中国側の事情

- ・ 中国はソ連などとともに共産主義陣営の一員となる
- ・ 朝鮮戦争でアメリカと戦闘
- ・ 以後、アメリカと対立し続けたため、アメリカの同盟国である日本とも国交を結ぼうとしない

### 4. 日中国交正常化

- ・ 中国が台湾に代わって国連の代表権獲得（1971 年）＝国際社会への復帰
- ・ ニクソン米大統領の中国訪問（1972 年）
- ・ 田中角栄首相が訪中、共同宣言に調印して国交回復（1972 年）
- ・ 日中平和友好条約調印（1978 年）：明治以来、最も安定した関係に

## おわりに

日本と中国の国交正常化が遅れたのは、米ソ対立という戦後の国際政治の枠組みに規定されたからであった。国際環境が変わることによって、国交正常化も実現することができた。しかし正常化交渉の過程で、日中戦争の賠償問題があまり議論にならなかったことを、疑問に思った。この問題がこじれていたら国交正常化はさらに遅れたのではないだろうか。

次は日中国交正常化が日本・中国それぞれの社会にどのような影響をもたらしたのか、調べてみたい。